

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために・・・

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して
栃木県議会議員

さいとう淳一郎街頭演説レター

第 23 号

発行日 平成 26 年 3 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

矢板南産業団地に多種多様な企業を誘致しましょう！

「さいとう淳一郎」は前回の県議選において、片岡にある、県企業局が造成分譲している矢板南産業団地に、新しい発想で多種多様な企業を呼び込んでいくことを提案しました。

「さいとう淳一郎」の度重なる取組もあって、矢板南産業団地の分譲価格は、1㎡当たり平均 12,804 円に引き下げられました。引下げ率は 26.2%に達しています。

これまで企業誘致に苦戦してきた矢板南産業団地ですが、「さいとう淳一郎」は、今回の分譲価格引下げに加えて、今後、震災復興が加速する東北 3 県と東京圏の間にあるという地理的優位性を生かし、一社でも多くの優良企業を誘致し、矢板市経済の活性化と雇用の拡大に努めていきます。

また、矢板南産業団地では昨年から、2社の企業によるメガソーラー（大規模太陽光発電）の事業がスタートしています。矢板市内に工場があるシャープさん、大手電機メーカーのシャープ、そして携帯電話でおなじみのソフトバンクの子会社、SBエナジーが相次いで、矢板南産業団地でのメガソーラー事業をスタートしています。これらの年間発電量は、一般家庭に換算して 1,950 戸分に相当しております。

今回のメガソーラー立地も、従来型の事業用定期借地権の設定ではなく、民法上の土地賃貸借契約により実現したものです。

また、今回の立地は、「とちぎサンシャイン」プロジェクトに基づくもので、エネルギーの地産地消や災害に強い地域づくりの実現も目指しています。

メガソーラー自体の経済波及効果は決して大きくはありませんが、「さいとう淳一郎」は、今回のメガソーラー事業のスタートをきっかけに、矢板南産業団地を、太陽光発電を始めとする再生可能エネルギー産業の研究開発、設計、製造の一大拠点として整備していくことを提案していきます。

また、「さいとう淳一郎」は前回県議選で、矢板南産業団地を海外にPRすることを提案しましたが、今回、その第一歩として矢板南産業団地の英語版PRパンフレットが発行されました。「さいとう淳一郎」は、日本の貿易投資促進機関であるジェトロ（日本貿易振興機構）で外資系企業の誘致に取り組んだ経験を生かし、矢板南産業団地への外資系企業の誘致にも今後力を入れていきます。